

2025 年 4 月 10 日

2024 年度 関係者評価（語り支える会の立場から）

北星学園大学附属高等学校の教育を語り支える会
事務局長 鶴田恵子

はじめに

2024 年度もまた、教職員の皆様のたゆまぬご尽力に深く感謝申し上げます。新型コロナウイルス感染症の収束が徐々に見え始める中、学校の営みはかつての姿を取り戻しつつあり、日常の中に「新たな学びの風景」が広がり始めています。

昨年度は、人工芝グラウンドをはじめとする施設活用がさらに進み、行事や課外活動がますます活発になりました。加えて、学校祭や体育大会などの諸活動を通じて、生徒たちが自らの個性や力を発揮する機会も豊富に設けられました。私たちは、これらの成長の舞台を支えた教職員、そして前向きに歩んだ生徒の皆さんに、心からの敬意と拍手を送ります。

関係者評価として

1. 教育を語り支える会は、保護者 OB・OG、キリスト教会関係者、退職教員、近隣住民、施設職員など、多様な関係者によって構成され、附属高校の教育の質的向上に寄与することを目的としています。2024 年度の学校活動全体をふまえ、本校の教育理念「共育」（共に育む・育つ）の実践が着実に継承・発展していることが確認されました。対面活動も再開されつつあり、SNS を通して学校の様子を支援する働きも継続しています。ただペーパーレス化も進み多くが電子化されている面は便利ではありますが、高齢者には以前のような情報誌で紙面を手にとって読みたいという要望もあります。
2. そのような中で ICT 教育の進展は 2024 年度も顕著でした。授業におけるタブレット活用、学習支援ツールの整備、協働的学習の機会拡充、そして ChatGPT など、AI による高度な機能の活用など、新たなルール作りなどが必要となってくるのではないかと思います。
3. 教職員の皆様は、いわゆる Z 世代と呼ばれる若い教員も加わり、世代間の連携を大切にしながら、これからも率先して教育の可能性を広げていただきたいと願っています。
4. 今年も新入生アンケートなどを通じて「附属高校に期待すること」の傾向が分析されました。従来のクラブ活動中心から、英語教育、進学指導、キャリア形成への関心へと広がっていることが明らかになっています。社会情勢が不安定という影響もあるのか？生徒達が、やや内向き志向に変わってきたようにも感じます。いずれに

せよこうした多様なニーズへの応答が、生徒募集の安定と信頼につながっていると受け止めています。

5. 地域社会との関わりについても、2024 年度は活性化が見られました。部活動単位でのクリーン活動、子ども食堂支援、幼稚園の行事のお手伝い、地域（厚別区）の行事へのボランティア参加などが、積極的に実践されました。
6. 英語力の向上を図る少人数制授業や、苦手分野への丁寧な対応を模索していることは、学力の底上げと共に、誰ひとり取り残さないという姿勢が大切にされるのだと思います。生徒達が家庭学習や自発的な動機による習慣を身に着けるために、各教員の工夫を互いに共有できれば、より拡がりをもつことができると思います。
7. 北星学園大学附属高校の根幹である「共育」の精神が日々の実践の中で根付いていくことを願います。これは教師や、私達のような「教育を語り支える会」の大人として学校の歩みを応援しつつ、必要に応じて学校や若者たちから学ぶ機会を大切にしたいと思います。感染症への予防措置も緩和されたので、そのために何らかの企画等を考えていただけると、私達も含めて「共育」に携わることができるでしょう。
8. 今後の北星学園大学附属高校のますますの発展を期待しています。